

「JENESYS2017」香港・澳門高校生訪日団 参加者の感想（抜粋）

◆香港団

○学校訪問で、私は日本の学生の熱意を感じた。松戸国際高校でも北稜高校でも、学生たちの私たちに対する態度はとても熱心だった。中でも班長は、私たちに替わって弁当を持って来てくれる等、何かと面倒をみてくれた。校内では、日本人の礼儀正しさと人に接する際の礼節も目にした。例えば2校とも来客用に下駄箱が備えられていたし、学生は先生に会うとお辞儀をして挨拶し、師を尊び、道を重んじる精神を体現していた。食事の前には周りの学生に挨拶をし、別れ際には手を振って見送ってくれた。彼らのそうした小さな一つ一つの行動から、尊重されていると感じたし、日本人が礼節を守り重んじていることを実感した。このような精神と、中国が提唱する自重し人を敬う礼儀文化の概念には似たところがある。だが、残念なことに現実の中国・香港では、他人を尊重することは少ない。特に師を敬う風潮は稀薄だ。他には、学校交流で参加した書道のクラスがとても印象深かった。日本の学生が練習していた隸書や草書等の字体は、私が書いたものよりずっと美しく、日本が文化を重視し伝承していることがよく分かった。書道は日本では広く伝わり、中国では逆に徐々に衰微している。伝統文化を守るために自分に何かできることはないかと考えさせられた。だから、私はこれからも引き続き中国音楽を習い、茶道等も学んでみて、自分の文化知識を深めようと思う。

○学校訪問では、二つの高校を訪問し、楽しい時を過ごした。2校での交流の中で、私は香港と日本の違う点と同じ点に気付いた。まず学生に関しては、日本の学生は香港の学生より熱意があると思った。例えば、学校を訪問中のこと、日本の学生の英語の学習時間は香港の学生より少ないが、彼らはそれでも一生懸命英語を使って私たちと交流しようとしていた。上手く伝わらない時には、様々なジェスチャーまで使って、何とか私たちと交流しようと頑張っていた。私たちはそのことにとっても感動した。香港の学生はクラブ活動や環境保護をあまり重視していないことにも気付いた。日本の学生は、放課後、皆積極的に様々なクラブ活動に参加していて、学校はとても活発な雰囲気だった。また日本の学生は環境保護やリサイクルをとっても重視していた。彼らのお弁当はとても小さく、食べ物を無駄にしないためにとっても良い食習慣だと思った。ごみも積極的に分別し、ところかまわず捨てたりしないので、校内も道も清潔に保たれていてとても印象深かった。専門領域では、デジタル復元師という職業を知り、非常に特殊だと思った。今まで一度も聞いたことがなく、この職業に対して新たな認識を持った。

○今回の交流団で、私は沢山の経験をした。観光も学校もホームステイもそれぞれにとっても印象的だった。私が学校訪問で考えさせられたこと、ホームステイで感動したことを以下に記す。

学校交流で、私は数学と音楽とバドミントンの授業に参加することになった。その中のバドミントンの授業でのこと、チームのメンバーのレベルはかなり高かった。もし香港で、私たちがレベルの低い学生と対戦することになったら、きっと傲慢な態度をとり、相手にしたくないと思うだろう。でも日本のメンバーは私たちがバドミントンに不慣れだと知ると、気遣ってくれただけでなく辛抱強く相手をしてくれた。この経験で、私は彼らの謙虚な心を実感した。ホームステイでは、ホストファミリーが学生の受け入れを始めて4年目になる家庭で、毎年100人の学生を受け入れていると

知った。だが、彼らの用意してくれたプランや交流の中で、冷めた感じは全く受けなかった。受け入れ4年目になるホストファミリーが、今も尚、私たちに対する熱い気持ちを持ち続けていることに感動を覚えた。

○学校を訪問した時、私は日本の高校生のクラブ活動や学校の教育制度について沢山の事を知った。例えば茶道や剣道、野球等だ。中でも一番忘れられないのは茶道だ。日本の茶道は中国から伝わったもので、礼儀をととても重んじる。座り方にもお茶の飲み方にも全てに一連の規則がある。お茶を飲む時の正座はととても辛い、それでも茶道への強い興味の方が勝る。中国茶と言えば普通はプアール茶や鉄観音茶等だが、日本茶と言えば抹茶だ。私は茶道から日本人の礼を以て人をもてなす気高い品格を学んだ。茶を嗜む文化と、その食文化には切っても切れない関係がある。ホストファミリーの家では、食事の前にはいつも「いただきます」と言い、食べ終わると「ご馳走さまでした」と言っていた。そうしないと礼儀知らずと思われる。日本人の「礼」に対する重視は、中国伝統文化の中の「自己を抑えて礼を返す」という考え方に似ている。どちらも礼を以て私欲を抑える。「礼」を極めるとは、内心を見つめるところから始め、自己を「仁」の境地に到達させることだ。これは人の修養と品格形成を助け、今後の仕事や生活の全てに役立つだろう。

○今回の学校やホームステイ先での経験を経て、私は日本人の何事にも真面目に取り組み、心を込めて人をもてなす優れた特性を実感した。学校でも家庭でも、行く先々で温かいもてなしを受けた。学校ではわざわざ私たちを出迎えてくれた。資料や水など、必要な物は全て予めきちんと並べられ、席に着いたらすぐに学校の歴史や特色について閲覧できるよう準備されていた。それに比べて香港では、速度と効率を重視し成果を追求するあまり、人がどう感じるかをおろそかにし、他人の立場に立って考えることができていない。日本の学校も家庭も、日本の一番素晴らしいところを私たちに見せようとしていて、その熱意や真心がしっかり伝わってきた。日本の学生も私たちとの交流を心から望んでいて、言葉は何の障害にもならないことを教えられた。相手の文化や言葉を学びたいという気持ちさえあれば、お互いの話は理解でき、最後には認め合い、受け入れ合い、あらゆるレッテルや誤解を消すことができ、バラバラになった関係を近づけ、共に協力して助け合い、問題を解決することができる。また、日本の学生はととても真面目にクラブ活動に取り組んでいる。毎日放課後になると、皆時間をやりくりして練習に励む。クラブ活動を一種の責任と興味を育てる場と捉えているようで、強い使命感と情熱を感じた。それに対して香港の学生は、クラブ活動を一種の自己の経歴を増やすためのもの、修了証書をもろうためのものと考えている。競争が激しく、利益を追求するだけの社会が、学生の価値観をも変え、クラブ活動本来の意味を忘れてしまっている。最後に、私は今回の視察で、日本政府が経済発展と文化保護のバランスを上手く保ち、高みに達しても基本を忘れていないと感じた。発展と繁栄を理由に歴史や文化の重要性を軽んじることなく、教育の場でも政治面でも優れた伝統を継承している。私は両者が共存可能で分離不可能なこと（両者の対立は必然ではないこと）を知った。

○今回の交流を通じ、身を以て日本文化とその独特な魅力を感じる事ができた。

まず学校について。2校との交流ではどちらも日本人の細やかな心遣いを感じた。2校とも事前準備がしっかりできていた。翔陽高校では、わざわざ国際交流系の学生を揃え、一緒に日本の高校生活を体験させてくれた。クラブ活動では、和太鼓部のパフォーマンスにととても感動した。——パ

フォーマー全員の動きが揃っていて、暗譜（楽譜は完璧に暗記）していて、視線も揺ぎ無くて……あの6分間で私たちは日本の高校生がクラブ活動に真剣に取り組み、自分の価値を見出しているのを感じた。香港の高校生活では、多くの場合おそらく皆自分の経歴を美化するためにやっている。だからクラブ活動にそれほど熱心ではない。日本の学生を見習うべきだと思った。

次にホームステイについて。ホストファミリーは自分たちの子供のように私たちに接してくれた。一緒にご飯を作り、掃除をし、口を漱いで床に就いた。まるで暫く日本にいて帰っていない我が家のようなだった。他にも、日本のホストファミリーは私たちに空を眺めに行くことを教えてくれた。香港の無数の灯りの下では、夜空に星が見られることは稀だ。香港の人も忙しい生活の中で空を見上げることを忘れてしまっている。折しも今回奈良を訪れたのは、ちょうど双子座流星群がピークの時だった。ホストファミリーは私たちの期待を知ると、二の句を言わず防寒用の衣類を準備してくれ、私たちと一緒にあぜ道でその時を待ち、星の方向や日本語名等を教えてくれた。久しぶりに空を仰いだ私たちは天空の魅力を再認識することができた。

○社会面では、日本は時代と共に発展してきただけでなく、伝統文化も保存してきた。清水寺や東大寺等を含め、私たちが見学したそれぞれの神社仏閣は、どこも古くからの文物を大切に保存していた。例えば仏像や伝統的な祈りの場所は、観光客にも日本の宗教の特色を感じさせてくれた。経済の発展を急ぐあまり、古くからの建築や文物を再建したり博物館に放置したりしない。香港とは違う。私たちは文物の所在地で、より一層それらの過去の輝きや風格を感じる事ができた。このことから、日本は物の根源を絶対に忘れないということが分かる。他には、日本は現代感で溢れている。社会環境やあらゆる物が現代的だ。例えばレジ、レジ係は小銭を探したりおつりを計算したりする必要がないので、代金の取り過ぎや不足という事態が減る。例えば交通、地下鉄のカバー率が高く、交通は発達していて便利だ。市民は気軽に目的地に行ける。つまり観光客でも簡単に利用できるということだ。そして圧巻なのは最先端トイレだ。ほぼ全ての場所の洋式トイレには、脱臭洗浄機能がついていて便座まで温かい。日本のデザインの細やかさと最新技術が反映されている。

学業面では、日本は学生の成績を重視するだけでなく、学生の才能や文化の伝承により重きを置いている。交流した二カ所の学校では、茶道部や剣道部、和太鼓部等の日本の伝統文化のクラブ活動が学生にとっても人気だった。学校も色々な面で活動を支援していて、日本人が文化の伝承を重視していることが分かった。だから、学校で小さい時から習慣的に自国の文化に触れさせているのだ。他にも、日本では書道等も試験の範囲に入っていて、日本人が単に成績を良くするだけでなく、学生の潜在能力の発掘もしていることが分かった。

○学校訪問や参観を通じて、日本人の文化に対する態度や人や物事への接し方を知り、色々な面で見習いたいと思った。第一に、日本人は自国の文化を大切にし、積極的に保護や伝承に取り組み、根源を忘れない。例えば神社仏閣は、その環境を守りデジタル復元師が古代の文化を伝えている。彼らはその国民性から団結し、文物を愛護し一代一代伝承していくという意識を持っている。第二に、日本人はその土地の文化の意義が重大であることに賛同している。学校はこれらの活動を保存し、クラブ活動の中で学生に学ばせている。例えば和太鼓や茶道、剣道等、クラブ活動は多種多様だ。第三に、日本の学生はとても真面目に物事に取り組む。決して投げやりにしないし、多くの時間を注いで学ぼうとする。例えば和太鼓部は、放課後毎日全神経を集中させて練習している。毎回全力で最高を目指す。香港と比べると、私たちは日本のように中国文化を大切にはしていない。い

くつかの学校に広東劇や書道、将棋、茶道等のクラブがあるだけで、香港のクラブ活動は単一的だ。伝統文化を伝え、活動をより多彩で新鮮なものにし、学生が才能を発揮し伸ばしていけるようもっと支援してほしい。他にも、日本人は物事に真面目に取り組む。彼らの十分な準備と活動に参加する時の真剣な態度から知った。彼らは相手がどう感じるかに注意を払う。例えばそれぞれの席には資料と水が配られていて、学校は日本と香港の文化に関するゲームを実施し、各クラブは皆特色あるパフォーマンスを準備し、私たちが体験までできるよう道具の準備や指示がなされていた。日本の伝統文化と国民性が深く印象に残った。

◆澳門団

○日本に来て2日目に、私たちは「美しい色の中に生きてきた日本人」というセミナーを聴いた。講師の小林先生は、自身の知識と経験を結び付けたデジタル復元という技術で国宝級の着物を甦らせ、私たちに試着もさせてくれた。先生は自身の経験から「自分が何をしたいかをずっと忘れない」ことが大事だと教えてくれた。日本の科学技術に関するセミナーだったが、人生について学ぶセミナーでもあった。

その後、日本の高校生と交流する機会も沢山あった。まず歓迎会で明星学園高校の学生と交流した。彼らはとても気を遣って私たちと交流し、私たちがパフォーマンスをする時には熱心に応援してくれた。続いて小田原高校や登美ヶ丘高校では、学生たちは皆とても積極的に私たちと話をしてくれた。自分が心を開いて他人と交流しようとしさえすれば、言葉は大きな障害ではないと知った。学習面でのストレスは澳門に比べて軽く、学生はより多くの時間をクラブ活動や家族との交流、一緒に食事を作ったりすることに費やせる。中国も学生の学習面のストレスを軽減し、「あらゆる面を伸ばす」ことを重視し、学業成績だけを見ずに、学生が自己の潜在能力を見つけ、好きなことができるようにすべきだと思う。

ホームステイ体験では、Nさん宅にお世話になった。そこは木造の小さな一軒家で、家の中のテーブルや腰掛け、グラス、皿は全て家族が作った芸術作品だった。自分の趣味を生業として、日々大自然の懐の中で過ごせるとは、なんと素晴らしいことだろう！ホストファミリーとの会話の中で、人と相対する時一番大切なのは、相手を気遣い交流したいと願うことだと知った。このことは私の今後の生活や仕事にきっと役立つと思う。ホームステイ体験は今回の旅の中で一番深く印象に残った。私はNさん宅の楽しく温かい雰囲気を楽しんだ。

○今回の9日間の交流訪問では、いくつもの有名観光地や各地の高校を訪れた。遠く離れた土地には必ず異なる文化や風俗習慣がある。

(一) あらゆる面を伸ばすことを奨励：日本のクラブ活動は多彩だと聞いてはいたが、実際に訪問してみて、8割を超える学生が様々なクラブに参加していることを知った。澳門の教育は詰め込み方式だ。どちらにも良い点はあるが、もし両者の間で上手くバランスが取れれば、学生は学術面と興味のあることを両立できると思う。

(二) 文化の融合性：日本は島国で単一民族なので、民族色が非常に濃く、伝統文化を保存しようとする意識がとても強い。中国は多民族の特性として、民族や文化の差が大きい。沿海地域は外国とより密接な関係にあり、澳門に於ける中国とポルトガルの融合もその代表の一つだ。

(三) 話の仕方：日本人の物言いは穏やかで人を傷つけないが、誤解を招きやすい。中国人は問題の急所を突き、物言いは直接的だ。だがどちらが良い悪いということではなく、単に好みの問題

に過ぎない。

全てが整った体験は、確実に多くの貴重な経験をもたらす。今回の訪問は、私に、また違う更に多面的な日本を見せてくれた。

○今回の交流活動を通じて、私は日本という「礼儀の国」への理解をより一層深めた。まずホームステイ体験が最も深く印象に残った。ホストファミリーの家で一緒に過ごした時間は1日もないたったの19時間ほどだったが、その短い時間の中でも、日本人の情熱や思いやりを十分に感じることができた。そして私は日中の違いに気付いた。中国には「食らうには語らず、寝ぬるには言わず」という言葉があるが、日本では食事の際には皆で会話をし、互いの理解をより深めていた。「父上様」は最後に私にもっと自分の感じたことを表現すると良い、そうすることではじめて、もっと他人と上手く交流できる、と教えてくれた。次に印象に残っている活動は学校交流だ。自分と近いか同じ年齢の日本の高校生と知り合えた。交流の中で、互いに自分の国について紹介し、それぞれの学校の違う点や授業の違いについて話し、とても興味深かった。別れの時、私たちはいつかもう一度会えるようにと願い、連絡を取り続けようとSNSの連絡先を交換した。その他に、京都鉄道博物館もとてもよかった。澳門には地下鉄も鉄道もないので、とても新鮮だった。博物館には沢山の種類の列車が展示され、日本の鉄道の進化を物語っていて、日本の歴史についても少しだけ知ることができた。総じて、今回の訪日活動では得る物がとても多かった。澳門に帰ったらホストファミリーの家で学んだ生活の知識を自分の日常生活に活かしたいと思う。

○今回の活動で、私たちは神奈川県立小田原高校と奈良県立登美ヶ丘高校へ行き、一泊のホームステイも体験した。まず印象的だったのは、日本の清潔で整った都市環境だ。東京でも渋滞はほとんどなく、道で大声を上げて騒いでいる人もいない。たとえ数歩で渡れる道でも、誰も赤信号で渡ったりしない。私たちも見習うべきだと思った。

澳門の学生と明らかに違うのは、日本の学生はクラブ活動に熱心だということだ。澳門でも学生の様々な面を伸ばすべきだとよく口にはしているが、学生の情熱や参加率は日本に比べてやはり少し劣っている。学業の大変さは、自身の潜在能力を発掘する努力を怠ることの口実には決してならない。日本の学生にも憧れの大学はある。つまり、心をしっかり持って努力を続けさえすれば、できないことは何もないのだ。

田舎では、賑やかで生活のテンポが速い都市よりも、生活とは何かを体感できた。前日まで楽しんでいた都市の栄華や富貴、賑わい。田舎に来るとそれとは別の味わいがある。これまでに何度か体験したホームステイでは、自分が特別な客になったような感じがしただけだった。それが今回は違っていた。私たちはKさんの家にお世話になったが、自分たちがまるで何年も家を離れていた子供であるかのように感じた。家の中の事はよく分からなかったが、私たちができるようになるまで何度もやらせてくれた。正に中国の古いことわざの「人に授けるに魚を以てするは、漁を以てするに如かず」だ。そうしてわだかまりは消え、温かい感情が幾重にも重なっていった。ホームステイ先は田舎だったが、家の中の設備はほとんど全て揃っていて、想像していたような都市との大きな格差はなかった。結局、格差が拡大すれば、農民は二度と田畑を耕さなくなり、都市も疲れるだけで割に合わなくなる。もしかしたら、これこそが日本人のこの上ない保障政策なのかもしれない。

文化に良いも悪いもない。学び続けそれを自分に合うように変えてこそ、私たちは今回の旅を無駄にせず、より美しい地球を創造できるのだ。